提　　言　　書

「新未来『創造』とくしま行動計画」の評価結果及び「県民からの優れた意見・提言」について

平成30年11月

県政運営評価戦略会議

は　じ　め　に

県政運営評価戦略会議（以下「戦略会議」という。）では，「新未来『創造』とくしま行動計画」（以下「行動計画」という。）の主要施策を評価の対象としており，今年度は行動計画の最終年度であることから，「成果」と「計画目標の達成見込み」を重視した「プレ総括評価」として，「平成２７年度から平成２９年度までの取組及び進捗状況」と「今後の取組方針及び計画目標の達成見込み」の２つの視点から評価しました。

また，「次期総合計画」の策定を見据えて，引き続き戦略会議の委員の提言に重きを置いた「未来志向型の政策評価」として実施しました。

さらに，とくしま目安箱等に寄せられた「県民からの意見・提言」についても審議し，県の施策に反映すべき優れた意見・提言として，１２件を採択いたしました。

これら評価結果等を「提言書」として取りまとめましたので，徳島県総合計画審議会において速やかに御協議いただき，「既存事業の見直し」や「新たな施策・事業の展開」につなげるとともに，「次期総合計画の策定」にも御活用いただきたいと考えております。

平成３０年１１月１９日

県政運営評価戦略会議
会　長　　石田　和之

目　　次

ページ

Ⅰ　行動計画の評価について　……　1

1　評価方法について　……　1

（1）評価対象　……　1

（2）評価の視点　……　1

（3）評価基準　……　1

（4）評価手順　……　1

（5）戦略会議の開催状況　……　1

2　評価結果について　……　2

（1）総括　……　2

（2）基本目標ごとの意見・提言　……　3

（3）次期総合計画への反映について　……　5

Ⅱ　「県民からの優れた意見・提言」の採択について　……　7

（参考）

委員名簿　……　１０

（別冊）

「新未来『創造』とくしま行動計画」　主要施策等評価シート

Ⅰ　行動計画の評価について

１　評価方法について

（１）評価対象

行動計画に位置付けられた主要施策（１４４施策）を対象とした。

（２）評価の視点

今年度は行動計画の計画期間（平成２７年度から平成３０年度までの４年間）の最終年度であることから,「成果」と「計画目標の達成見込み」を重視した「プレ総括評価」として,「平成２７年度から平成２９年度までの取組及び進捗状況」と「今後の取組方針及び計画目標の達成見込み」の２つの視点から評価するとともに,「次期総合計画」の策定を見据えて，引き続き戦略会議の委員の提言に重きを置いた「未来志向型の政策評価」として実施した。

（３）評価基準

評価については, 次の区分を基本に, 会議における委員協議の結果を踏まえて, Ａ，Ｂ又はＣの３段階で評価した。

Ａ：順調　　Ｂ：概ね順調　　Ｃ：要見直し

		平成27～29年度の取組及び進捗状況		
		良　好（☆☆☆）	概ね良好（☆☆）	不十分（☆）
今後の取組方針及び計画目標の達成見込み	妥　当	A	B	C
	概ね妥当	A	B	C
	不十分	B	C	C

（４）評価手順

あらかじめ担当部局が作成した主要施策ごとの「評価シート」に基づき，戦略会議の委員の代表者が作成した「評価案」について会議の場で議論し,「評価結果」として取りまとめを行った。

（５）戦略会議の開催状況

次のとおり３回に分けて開催した。

日　程	評価対象
７月３１日（火）	基本目標１及び２
８月　９日（木）	基本目標３及び４
８月２１日（火）	基本目標５，６及び７

２　評価結果について

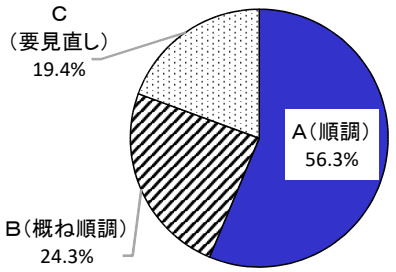
（１）総括

戦略会議での評価結果は，
「Ａ（順調）」と評価されたものが８１施策（56.3%），
「Ｂ（概ね順調）」と評価されたものが３５施策（24.3%），
「Ｃ（要見直し）」と評価されたものが２８施策（19.4%）となった。

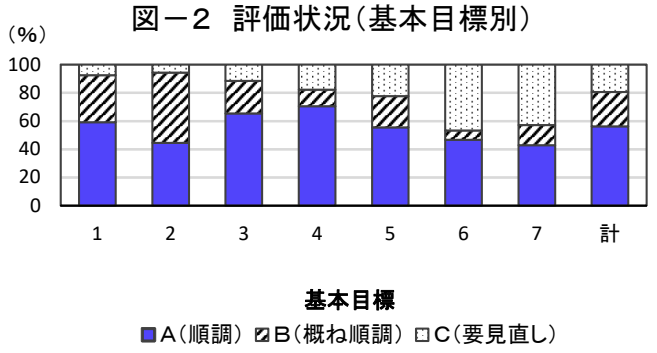
表－１　主要施策の評価結果

基本目標	評価区分						主要施策数の計
	A 順調	(%)	B 概ね順調	(%)	C 要見直し	(%)	
1　「ふるさと回帰・加速とくしま」の実現	16	59.3	9	33.3	2	7.4	27
2　「経済・好循環とくしま」の実現	8	44.4	9	50.0	1	5.6	18
3　「安全安心・強靭とくしま」の実現	17	65.4	6	23.1	3	11.5	26
4　「環境首都・新次元とくしま」の実現	12	70.6	2	11.8	3	17.6	17
5　「みんなが元気・輝きとくしま」の実現	15	55.6	6	22.2	6	22.2	27
6　「まなび・成長とくしま」の実現	7	46.7	1	6.7	7	46.7	15
7　「大胆素敵・躍動とくしま」の実現	6	42.9	2	14.3	6	42.9	14
計	81	56.3	35	24.3	28	19.4	144
参考　平成29年度の評価結果	83	57.6	36	25.0	25	17.4	144

図－１　評価状況（全体）



図－２　評価状況（基本目標別）



（２）基本目標ごとの意見・提言

１４４の「主要施策」の評価に加え，７つの「基本目標」ごとに，次のような意見・提言がなされた。

基本目標１　「ふるさと回帰・加速とくしま」の実現

○　成年後見制度については，親族や専門機関のみで後見人需要を賄えるものではないので，市民後見人の養成に一層力を入れ，もっと身近に利用できるものにしてもらいたい。

○　ユニバーサルデザインも含めて，今後のまちづくりで求められているのは「ＱＯＬ」なので，例えば，車を使わなくても豊かな生活ができるようなまちづくりの指標，「量」ではなく「質」的な指標を加えてもらいたい。

基本目標２　「経済・好循環とくしま」の実現

○　県産材の消費拡大について，今後の公共施設の新築・改築は県産材を用いた温かみのある木造建築とすることで，長い時間はかかるが，徳島の一つのアピールポイントにできるのではないか。

また，現在では中高層ビルを木造建築する工法も確立されていると聞いているので，大規模な建築事業への県産材の活用を奨励してもらいたい。

○　徳島のブランドである藍は，県内外から需要が増しているが，原料のすくもも含めて，生産が追いつくかどうかがネックとなっているので，藍の増産に係る目標を加えてもらいたい。

基本目標３　「安全安心・強靭とくしま」の実現

○　地域防災力の強化のためには，人命救助や防災に係る知識の豊富な消防団（員）の存在が大きいので，年齢等を理由に消防団員が退任する際，引き続いて地域の自主防災組織に加入してもらう仕組みができないか。

○　犬猫の殺処分を減らすためには譲渡先確保が大切であるが，動物愛護管理センターにおける手続が難しく譲受けを断念する方もいると聞き及ぶので，講習等の必要性は理解できるものの，手続がもう少しスムーズになれば譲渡先が広がるのではないか。

基本目標４　「環境首都・新次元とくしま」の実現

○　県民に対する環境啓発とともに，特に農家に対して生態系に配慮した生産技術を指導してもらえれば，農家も日頃から生物多様性の保護に寄与できるのではないか。

○　美しく豊かな環境を「未来への贈り物」とするためには，現在を生きる我々が所与の恵まれた自然環境に安住していてはならないので，学校教育をはじめ，あらゆる機会を通じて，引き続き環境の大切さを伝えていただきたい。

基本目標５　「みんなが元気・輝きとくしま」の実現

○　ひきこもり対策に関しては，「ひきこもり支援員」の増員も含め，ひきこもりに悩む家族がいつでも相談でき，また，相談を受けた行政窓口が速やかに行動に移せる体制の整備に努めてもらいたい。

　なお，支援員を養成するに当たっては，まずは，臨床心理士等の専門職が支援員としてだけではなく広く活躍できる場を用意するとともに，その労働条件を含めた社会的評価を上げることが重要ではないか。

○　食育に関して，学校給食への地場産物の活用は，「食品数」ではなく「重量」を目標とし，１日に必要な野菜摂取量の３分の１以上を，できれば徳島産の野菜で賄う学校給食が実施されれば，肥満児・糖尿病対策ひいては医療費節減，農業振興等，多方面の好循環を生み出せるのではないか。

基本目標６　「まなび・成長とくしま」の実現

○　高校生の留学者数については，採用に上限がある募集型の留学制度もあるので，県内高校生がそこで何人採用されたかというよりも、むしろ何人応募したか，「やる気」や「志」が高い学生がどれだけいたかが重要なので，意欲的な学生を育てる施策に取り組んでもらいたい。

　一方で，スポーツに関しては，志が高いほど指導体制の充実した県外高校に出て行ってしまうので，学生トップアスリートに県内高校を選んでもらえる魅力を磨く必要があるのではないか。

○　教育に関しては，トップエリートを育てることもさることながら，平均値を上げることも大事なので，誰もが留学に関心を持ったり，学力・体力の全国平均を超えていけるような施策も積極的にお願いしたい。

基本目標７　「大胆素敵・躍動とくしま」の実現

○　宿泊者数に関しては，日本の中で徳島を選んでもらうため，県西を訪れ，地域の方々と心の交流をすることに満足感を得たというインバウンドの話もヒントに，官だけではできない観光施策に民としっかり連携して取り組んでもらいたい。

　また，インバウンドや国内観光の流れが今後どうなるかは予想できないので，時流が変わったときに底力のある資源の醸成及び人材の育成をサポートしてもらいたい。

○　一部の四国遍路道については，草が生い茂って見通しが悪い等，巡礼する方にとって歩きづらい箇所が見受けられるので，道路管理者が協力し合い，世界遺産登録に向けて整備や管理に取り組んでもらいたい。

（３）次期総合計画への反映について

今年度の評価は，２ページに記載のとおり，Ａ評価（順調）及びＢ評価（概ね順調）の合計が１４４主要施策のうち１１６主要施策，構成比にして８０．６％と，全体の８割超を維持している。計画期間の最終年度である今年度を迎えるに当たって，引き続き，概ね順調に推移してきたことは評価できる。

しかしながら，戦略会議による評価は，県が自ら設定する数値目標（成果指標）の達成度を中心にするものであるので，それが達成できなかった部分については，厳しく受け止めてもらう必要がある。現に，計画期間も後半戦に入り，一部の主要事業については取組内容が硬直化し，進捗も頭打ちとなることが鮮明になるなど，課題が散見される。

このような中にあって，僅かとはいえＣ評価（要見直し）が増加したこと（㉙２５施策・１７．４％→㉚２８施策・１９．４％）は，これまでの取組のマイナーチェンジではなく，新たな発想，異なるアプローチが求められていることを示唆しているのではなかろうか。

４年の計画期間も，残すところあと４か月余りとなった。全庁一丸となって行動計画の総仕上げに取り掛かると同時に，この４年間で浮かび上がった問題点を的確に分析し，速やかにその解決策を見いだしてもらいたい。

その上で，この４年間で得られたもの，成果も課題も材料にして，最少の経費で最大の福利を県民に還元できる「次期総合計画」を，しっかりと創り上げてもらいたい。

戦略会議としては，各分野の第一人者である委員１４名による７０を超えるこの提言が，その一助となることを期待するものである。

なお，基本目標ごとの主な意見・提言は，３ページから４ページにかけて記載のとおりであり，評価単位である主要施策に対する意見・提言は，別冊「新未来『創造』とくしま行動計画　主要施策等評価シート」の委員意見の特記事項の欄のとおりである。「次期総合計画」の策定に際しては，これらの意見・提言を十分に参酌していただきたい。

また，行動計画全体に対して，次のとおり数多くの総合的な意見・提言がなされたので，「次期総合計画」策定上の大局的又は技術的な指針の一つとして，念頭に置いてもらいたい。

○　計画に掲げた以上は数値目標をしっかりとクリアしつつも，本当にその数値目標で施策や事業が真に目指す成果の達成度が測れるかどうかを改めて検証し，県民への説明責任が一層果たされるよう努めてもらいたい。

○　人口減少という現実を受け入れた上で，より幸福度の高い生活をこの徳島で実現していくために，現在の行動計画に定める事業及び数値目標を適切にスクラップアンドビルドして，次期の計画を策定してもらいたい。

○　次期の計画の数値目標には，可能な限り，いわゆるアウトプット（活動）指標ではなくアウトカム（成果）指標を設定することで，各施策が真に目指している福利を生み出せたかどうかを検証し，及び評価することができるようにしてもらいたい。

○　数値目標については，容易には達成できない高い目標を掲げる気概も大切ではあるが，結果としてそれを達成できなかった以上は，現在のアプローチの仕方が妥当かどうかを，改めて検証すべきではないか。

○　売上増加額のように金額で設定される数値目標の施策や事業については，可能な限り効果額，つまり費用対効果も同時に示してもらいたい。

○　いったん定めた計画や数値目標を機械的に実施し，又は達成することだけが求められるとは限らないので，それらに拘泥することなく，県民の要望に常にアンテナを張り，臨機応変に応えていってもらいたい。

○　労働力人口の減少は所与の状況として受け入れざるを得ないので，外国人の就労支援を今後一層充実させてもらいたい。

○　人口減少の中で大学の運営を維持するとともに労働力を確保するため，海外からの留学生がもっと増え，かつ，卒業後も県内に就職してもらえるような施策を県内各大学には検討していただき，県にもそれをバックアップしてもらいたい。

○　県南部の「きゅうりタウン構想」のように，「半農半Ｘ」で県外から若者を呼び込めるような施策や事業を更に展開するとともに，次期の計画にも盛り込んでもらいたい。

○　特に本県の基幹産業である農林水産業の「もうかる」仕組みの構築とそのサポートのために，県，事業者，県民といった多様な主体が，ブランディング，人材育成そして科学技術の振興を実践していくことが必要ではないか。

○　環境問題は，非常に長期的な視点が必要で，目先の優先順位が低くなりがちであるがゆえに，時期によって，人々の関心の強弱の幅が大きいが，常に県の総合計画の一角を占め，こういった会議で毎年度議論を続けているということは，やはりもっと積極的に取り組むべきところがあるということではないか。

○　女性，障がい者，健康，自殺，ひきこもり，高齢者，子どもと，これらに関わる問題には既に直面しており，引き続き原因療法及び対症療法が必要である一方，１０年，２０年，３０年先にも同じような問題が起き続けないように，今から少しずつでも備えていく予防療法が必要であるので，短期・長期両面の視座からの具体策を考えてもらいたい。

Ⅱ　「県民からの優れた意見・提言」の採択について

平成２９年７月から平成３０年６月までに「とくしま目安箱」等に寄せられた意見・提言のうち，次の１２件を「県民からの優れた意見・提言」として採択した。

これらの意見・提言について，その趣旨を十分に踏まえ，できる限り施策等に反映していただきたい。

戦略会議で採択された「県民からの優れた意見･提言」

	提言先	項　目	意見・提言の内容
1	目安箱	徳島阿波おどり空港へのＬＣＣ誘致について	国際線の就航が始まったが，このままでは四国や関西圏に来る観光客だけになってしまう。もっと徳島阿波おどり空港を活用するため，四国に来た観光客がLCCで関東へ，東北へ，北海道へ，九州へ，また，その逆ルートで四国へ。四国のLCC起点空港になると，ホテルなども増え，活性化につながる。 また，県民も各地域との行き来が増え，ビジネスでもプライベートでも充実した“暮らし満足度”アップにつながると思う。
2	目安箱	マリンスポーツイベントに必要な設備等について	手軽に誰でも参加できるイベントのために必要なものは，更衣室，シャワーやミーティングルームを備えた建物，そしてボートを安全に水面に浮かべ，乗り降りができる設備と場所である。“広い駐車場”があることも重要である。 徳島の川，海，森の自然の豊かさを多くの人に体験してもらえるように，担当部署の違いを乗り越えて前に進めて欲しい。
3	目安箱	徳島阿波おどり空港やTurn Table（ターンテーブル）での藍染め製品販売について	県内の障がい者授産施設では，藍染めなどの製品を製造･販売しているが，生産量も僅かであり，採算ベースにはほど遠い。 そこで，徳島阿波おどり空港や渋谷区Turn Table内にawanowa（あわのわ）ブランドのショップを開設してはどうか。藍染め製品は，県外客の方がより興味を示すし，高級品だが，施設製造であればよりリーズナブルな価格設定が可能となる。 いったん製品の良さを認識してもらえば，専門業者の高価格帯の製品販売につながると考える。

	提言先	項　目	意見・提言の内容
4	目安箱	四国木工市や四国・インテリアマーケットの開催について	徳島は日本六大家具産地と呼ばれており，とりわけ西日本では知る人ぞ知る産地である。徳島では衰退の一途だが，みんなが頑張って立ち上がっているのが福岡県大川市で，春，秋に大川木工市を開催し，地場産業を盛り上げている。各社競い合い，切磋琢磨している。大川は世界発信を始めて何年にもなり，有名列車での起用もあって加速している。 徳島県でも県主催で，四国や中国地方の企業も巻き込み，商談市を企画開催すべきである。続けることで産業となる。
5	目安箱	兵庫県との自動車以外の交通確立について	国道28号は神戸市と徳島市を結ぶ国道だが，大鳴門橋は軽車両（原付バイク・自転車）では往来できない。淡路島はサイクリングやツーリングのメッカとして人気で，神戸や姫路などの方が淡路島まで観光に来たら，ちょっと徳島も行こうかな…ともなる。 大鳴門橋や渦潮を堪能しながら対岸まで渡れる観光船を利用したり，大橋の3車線のうち1車線を軽車両専用にする方法や，淡路島南IC～鳴門北ICに軽車両を運搬できるバス（トラック）を定期路線便として営業するなど，どんな車両でも四国～関西を気軽に往来できるようにして欲しい。
6	目安箱	四国八十八箇所巡りの世界文化遺産化について	四国八十八箇所巡りを世界文化遺産に登録するため，国内外の宗教家や芸能人に四国八十八箇所巡りのPRをしてもらってはどうか。宗教にかかわらず，「人間の生き方を問う場」や「平和の象徴の場」として発信する必要がある。 また，四国八十八箇所を舞台に宿泊型のトレイルチャリティーマラソンを行い，その収益を，景観保護や八十八箇所ごとに特色ある修行，民間企業の誘致や有機栽培食品の使用比率を増やした宿坊の整備，癒しの場所づくりに活用するとよいと思う。
7	わくわくトーク	トレッキングコース及びサイクルスタンドの整備について	祖谷の方は山が綺麗で景色も良いところがたくさんあるので，古い道をトレッキングコースにしてみてはどうか。 また，海外から来るサイクリストの方々をよく見かけるので，サイクルスタンドの整備を進めて欲しい。
8	目安箱	手頃なマリンスポーツ子供イベントの定着について	水の都でもある徳島ならではのマリンスポーツを子どもが小さなうちから色々体験させたいが，どのスポーツも料金が高くて家族では楽しめない。川や海が綺麗なので，子どもイベントやお得なマリンスポーツを定着させることで県外客も来るのではないか。水都祭でも是非SUPを体験させてもらいたい。

	提言先	項　目	意 見 ・ 提 言 の 内 容
9	目安箱	徳島阿波おどり空港への国際路線の就航について	徳島阿波おどり空港に国際路線を就航させられないか。単発のチャーター機でなく定期便なら地元の雇用も生まれるし，メリットはあると思う。隣の高松空港は国際便が毎日飛んでいるので，徳島でも絶対にやってもらいたい。
10	目安箱	バイオトイレの活用について	阿南工業高校が竹のパウダーの発酵作用を用いたバイオトイレを発案し，第15回高校生技術・アイデアコンテスト全国大会で最優秀賞に選ばれた。県としても，災害訓練などに参加していただいた住民の方に実際に使用してもらえばどうか。 まだまだ試作品段階だが，学生たちの考えは後輩たちに受け継がれて，課題改善などの目標ができると思う。
11	目安箱	既存の資源を生かした企業やイベントの誘致について	①　例えば，飲料メーカー，ビールメーカー，それに研究所等，自然と豊かな水を生かした製造業等を誘致すべきである。三好市池田町にある専売公社跡地など，お金をかけずに誘致できるのではないか。 ②　阿波おどり等のノウハウを生かし，河川敷等の駐車場，鉄道を利用して，屋内外での若者グループ等のイベント誘致を推し進めてはどうか。
12	目安箱	徳島市内を中心とするバス路線の利便性向上について	徳島市やその付近の公共交通としてバスがかなりの路線数展開されているが， ①　市バス，徳バス，委託路線を統合した路線図が存在しない。 ②　市内指定区間一律210円だが，指定区間内の移動で乗り換える度に210円支払わなければいけない。 ③　バス路線同士の乗換えが実質徳島駅でしかできない。 ④　運賃支払にICカードが導入されていない。 といった問題点がある。 徳島市内の公共交通を存続させていくためには，市民がバスを利用する文化を形成することが不可欠で，路線の再編だけでなくサービスの面でも向上させていくべきであると思う。

（参考）
委員名簿

	氏　　名	現　　職　　等
会　長	石田　和之	関西大学　教授
副会長	阿部　頼孝	徳島文理大学　名誉教授
委　員	伊庭　佳代	（一社）美馬青年会議所　副理事長
〃	植田　美恵子	徳島女性農業経営者ネットワーク顧問
〃	加藤　研二	阿南工業高等専門学校　准教授
〃	近藤　明子	四国大学　准教授
〃	坂本　真理子	ＮＰＯ法人郷の元気　副代表理事
〃	田村　耕一	（株）阿波銀行　地方創生推進室　参事役
〃	鳴滝　貴美子	和田島漁業協同組合女性部　部長
〃	南波　浩史	徳島文理大学　教授
〃	久岡　佳代	かいふの木の家　事務局長
〃	藤原　学	（一社）徳島県労働福祉会館　理事長
〃	桝本　久実	税理士
〃	三木　潤子	ロイヤルセラピスト協会指定スクール みきはうす経営